

第1回 春日山原始林保全計画検討委員会 議事要旨

日時 : 平成25年2月8日(金) 午後1時00分～3時00分
場所 : 奈良経済倶楽部 5階 大会議室
出席者 : 委員長 吉田 博宣
副委員長 山倉 拓夫
委員 川瀬 浩、佐野 純子、田中 和博、前迫 ゆり、松井 淳、
宮城 俊作
オブザーバー 文化庁記念物課 本間調査官
事務局 奈良県土木部まちづくり推進局奈良公園室
関係部局 《奈良県》風致景観課、森林整備課、奈良土木事務所、
奈良公園管理事務所、文化財保存課
《関係機関》春日大社、林野庁奈良森林管理事務所、
奈良市景観課、奈良市文化財課

- 議題 ①春日山原始林の現況と課題整理について
②春日山原始林の保全手法について

議事要旨

○春日山原始林の現況と課題について

- ・ナラ枯れ被害は今後ピークを迎えると思われる。
- ・春日山原始林と奈良のシカが共存してきた歴史は大切にしつつ、そのあり方についても認識すべきである。

○春日山原始林の保全手法について

- ・春日山原始林をシカと共存しつつ、森林更新を誘導する具体的な保全手法は植生保護柵をつくるしかない。その成果をモニタリングしながら保全手法へ反映していくべきである。
- ・春日山原始林全域の大径木とギャップを把握する調査は、非常に価値があるので充実していただきたい。
- ・ナラ枯れ対策は、初期対応が重要なので超短期的な取り組みとして検討すべきである。
- ・文化庁では、検討委員会の議論に基づいた適切な保全手法であれば、特別天然記念物内での管理を許可している。
- ・檜皮採取等、人工林の利活用も春日山原始林の保全手法の一環として関連付けながら整理していくべきである。

○その他

- ・保全計画の策定期間については、必要な調査を順次調整する。
- ・水文、土壌水分条件等の生育基盤については、検討委員会の議論を充実するためにも、外部の意見を積極的に取り込んでいただきたい。

○まとめ

- ・ナラ枯れ対策については、緊急を要する保全対策として位置づける。
- ・春日山原始林とシカとの共存については、植生保護柵の設置を前提に検討していく。
- ・水文、土壌水分条件については、外部有識者へのヒアリング等により議論を充実する。